

Europe Indicators

発表日: 2021年5月20日(木)

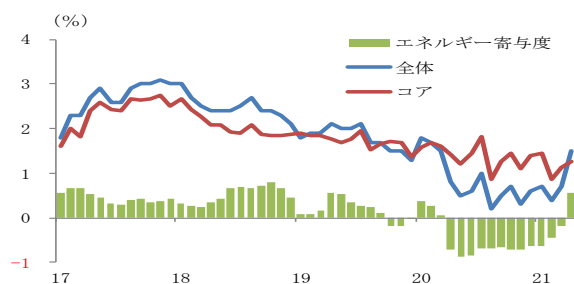
欧州経済指標コメント: 4月英国消費者物価

～経済活動再開によるインフレ加速ではない～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理 (TEL: 03-5221-4527)

- 19日に発表された4月の英国の消費者物価は前年比+1.5%と前月の同+0.7%から大幅に加速。原油の下押し剥落で1年振りにプラス圏に浮上したエネルギー価格（前月：同▲2.5%→今月：同+7.5%）が全体の計数を押し上げたことに加え、食料品価格（同▲1.4%→同▲0.4%）の下落率が縮小し、食料・アルコール・たばこ・エネルギーを除くコア物価（同+1.1%→同+1.3%）も上昇率がやや加速した。エネルギー価格の内訳は、住宅用燃料（同▲7.3%→同▲6.5%）の下落率が縮小したほか、自動車燃料（同+3.5%→同+12.6%）の上昇率が加速。公共料金が遅れて引き上げられるため、年後半を通じてエネルギー価格の上昇が全体計数の押し上げに働こう。
- コア物価の内訳は、都市封鎖の間に大幅な価格下落が続いた衣料・履物（同▲3.9%→同+0.1%）や宝飾品（同▲1.7%→同+0.2%）が僅かながらプラス圏に浮上したほか、修繕費（同+0.6%→同+1.3%）、家財道具（同+1.5%→同+2.7%）、医療費（同+0.2%→同+1.5%）、通信費（同+1.6%→同+2.8%）などが前月から上昇率が加速した。一方で、オーディオ機器や庭・ペット関連を中心に娯楽費用（同+2.3%→同+0.7%）の上昇率が大幅に鈍化した。
- 今月の衣料品価格の上振れは、昨年春の感染第一波でのオンライン販売需要を喚起するため大幅値下げを行った反動や、小売店舗の営業停止でセール時期などの季節パターンが例年とずれた可能性がある。こうした影響を除けばコア物価の上昇が目立って加速した訳ではない。サービス価格には、経済活動再開による供給制約がインフレにつながる兆しは今のところ確認されない。

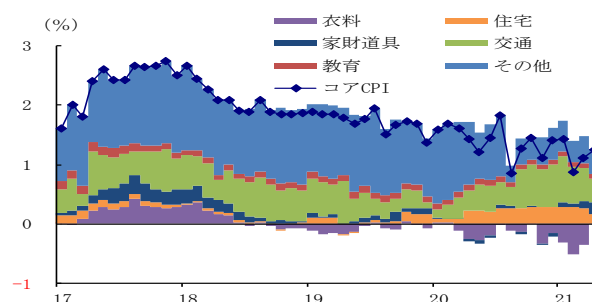
■英国：消費者物価の推移（前年比）



注：コア物価は食料・タバコ・アルコール・エネルギーを除く
 出所：英統計局資料より第一生命経済研究所が作成

■英国の消費者物価（%）

■英国：コア消費者物価の要因分解（前年比）



出所：英統計局

	2020			2021	2021									
	2Q	3Q	4Q	1Q	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
消費者物価 (前期比)	0.0	0.4	0.1	0.1	0.4	-0.4	0.4	-0.0	-0.1	0.3	-0.2	0.1	0.3	0.6
消費者物価 (前年比)	0.6	0.6	0.5	0.6	1.0	0.2	0.5	0.7	0.3	0.6	0.7	0.4	0.7	1.5
コア消費者物価 (前年比)	1.4	1.3	1.3	1.1	1.8	0.9	1.3	1.5	1.1	1.4	1.4	0.9	1.1	1.3
食料品 (前年比)	1.4	0.3	-0.5	-0.9	0.8	0.4	-0.1	0.6	-0.6	-1.4	-0.7	-0.6	-1.4	-0.4
アルコール (前年比)	2.0	0.8	0.5	0.3	2.0	0.1	0.2	0.2	0.2	1.2	0.3	-0.2	0.8	0.8
たばこ (前年比)	2.6	3.5	4.3	5.1	3.1	3.6	3.8	3.7	3.6	5.8	5.9	5.7	3.6	3.3
エネルギー (前年比)	-10.7	-8.8	-9.1	-5.6	-9.1	-8.9	-8.5	-9.5	-9.4	-8.4	-8.3	-5.9	-2.5	7.5
住宅用燃料 (前年比)	-6.8	-6.7	-8.7	-7.9	-6.6	-6.7	-6.8	-8.8	-8.8	-8.5	-8.4	-7.9	-7.3	-6.5
自動車燃料 (前年比)	-15.1	-11.3	-9.5	-2.9	-12.0	-11.4	-10.6	-10.2	-10.0	-8.3	-8.2	-3.5	3.5	12.6

注：消費者物価の前期比は季節調整前。コア消費者物価は食料・アルコール・たばこ・エネルギーを除く。出所：英統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

